

記 事

消 息

「2017 大韓韓医学原典学会国際学術大会」に
参加を終えて

吉田 和裕

順天堂大学医学部医史学研究室

2017年10月28日(土曜日)から29日(日曜日)にかけて大韓民国忠清北道堤川市において大韓韓医学原典学会の主催で、世明大学校韓医学大学が主管、そして世明大学校韓医学研究所の後援によって「2017 大韓韓医学原典学会 国際学術大会」が開催された。今回のテーマは「原典学教育の過去 現在 未来」であり、研究演題は韓国のみならず、近隣諸国の中国、日本からも研究者が招聘され参加したことで全22題となった。

学会は、忠清北道の観光名所でもある国内最大の湖である清風湖にある清風リゾートで行われた。このリゾートにはレイクとヒルの2つのホテルがあり、そのひとつに美しい湖畔にあることからレイクホテルを会場とした。また、周辺観光スポットには、この地域で採取された薬草から抽出した薬草石鹸などの体験が楽しめる山野薬村(薬草生活健康)があり、風光明媚な市でこのような学会が行われることは考え深いものを感じた。

一日目は、清風レイクホテルコンベンションホールにおいて北京中醫藥大學医史学研究室中醫學院副院長賀娟「『黄帝内經』陰陽理論の再考」、順天堂大学医学部医史学研究室吉田和裕「東アジアにおける「鶏足」鍼術について」、慶熙大学校韓医科大学原典学教室白裕相教授「近現代韓医学高等教育機関の教育課程分析」の3題がセッション1で行われた。セッション2は、大田大学校韓医科大学醫史學教室金容辰教授「韓医師力量モデルにおける原典学学習目標開発」圓光大学校韓医科大学原典学教室嚴東明教授「圓光大學校原典

學教育の事例」東國大学校韓医科大学原典醫史學教室金基郁教授、李丙旭教授「伯高派の医学思想に関する研究」の3題であった。一日目は計6題の研究報告が行われ終了し、その後は同ホテルにて食事をしてから2次会、3次回へ経て親睦を深めた。

日をまたぎセッション3以降は場所を世明大学校学術館にて変えて行われた。同大学校学は1990年に設立され、韓医学大学韓医学部、韓方バイオ融合科学部があり、その中に食物栄養学、韓方バイオ融合学、韓方食品科学、韓方医薬科学、韓方化粧品科学などの学科が設置されている。そこで、二日目のセッション3からは、釜山大学校韓医科大学韓醫學專門大學院人文社會醫學部柳正娥教授「原典學の教育での背講試験の活用と意義に関する考察」「漢文教育のPBL(問題基礎学習)適応の実例」、世明大学校韓医科大学原典醫史學教室趙學俊教授「Smart deviceを活用した原典授業の事例報告」、東義大学校韓医科大学原典学教室李相協教授「陳修園の標本中氣理論活用に関する研究」の3題、セッション4は、大邱韓醫大學校韓医科大学原典醫史學教室宋志青教授「原典基盤脈診教育に関する考察」、嘉泉大学校韓医科大学原典醫史學教室金鍾鉉教授「「済泌別汁」と分別清濁の作用に関する比較考察」、慶熙大学校韓医科大学原典醫史學教室安鎮熹博士「許叔微の「傷寒九十論」醫案の教育意義」の3題が午前中に行われた。

ランチタイムを挟んで、セッション5は、慶熙



写真1 2017年10月29日に研究報告者と参加メンバー等との成明大学校韓医学大学における記念撮影

大学校韓医科大学原典学教室尹銀卿博士「『胎教新記』に関する研究」、大田大学校韓医科大学原典学教室洪珍妊博士「大腸関連疾患に活用された食治房研究」韓国韓医学研究院未病研究團金尙賢博士「温病の膜原概念に関する考察」、嘉泉大学校韓医科大学原典学教室金鍾鉉教授・慶熙大学校韓医科大学原典学教室尹銀卿博士・慶熙大学校韓医科大学原典学教室辛相元博士「韓医科大学部生卒業の原典学教育に対する意思調査」の4題、セッション6は慶熙大学校韓医科大学原典学教室辛相元博士「『東醫寶鑑』の傷寒 厥陰病認識」、慶熙大学校韓医科大学原典学教室尹基領博士「胃脘の部位に対する考察—関連病症を中心に」、釜山大学校 韓醫學專門大學院崔白烈院生・釜山大学校韓醫學專門大學院人文社會醫學部柳正

娥教授「『千金方』の孫思邈養性醫學に関する研究」、釜山大学校韓醫學專門大學院安昇鉉院生、釜山大学校韓醫學專門大學院人文社會醫學部柳正娥教授「『黄帝内経』の刺鍼禁忌及び副作用に対する研究」、東國大学校韓医科大学原典醫學史教室姜珉徽院生・金基郁教授「雷公の医学思想に関する研究」で残りの4題が行われ終了した（写真1）。

以上の研究報告の内容は、論文集として編纂され、立派なパンフレットともに配られ、有意義な国際学術大会となった。今後は、各国の持ち回り制として定期的にこのような国際学術大会が行われることが、東アジアにおける伝統医学の重要性を誇示するものになるだろうと実感した。